

<白金標準、下げ渋りの時間帯を経て底固めへ・・・>



(出所：オアシス)

パラジウム価格が電気自動車の普及に伴い長期需要が低下する懸念で昨年12月14日の英国政府がロシア産金属の使用禁止を発表する以前の1000ドルを割り込む動きを見せている。そのためPGMの白金価格も年明けからNY市場で950ドルを下回り週末には914ドルまで下値を模索している。特に中国税関総署が発表した2023年の輸出額は7年ぶり、輸入額は3年ぶりの減少となり、輸出額から輸入額を差し引いた貿易黒字は1・8%減の8232億ドル(119兆円)となるなど、中国経済に対する不確実性の高まりから週末の白金標準先物は、一時4231円まで下値を模索するなど、年末の高値4517円から比べ286円安と短時間で下落している。また大阪取引所の投資部門別建玉集計表では、12月29日時点で個人計は前週から6046枚売り越し、54枚の買い。1月5日には789枚の買いと積極的な強気の見方は出来ない。しかし海外投資家は12月29日時点で前週から5357枚買い越し、7612枚の買いを1月5日にも7217枚の買いと強気を維持しており、意図的な安値を売り込ませる値動きに注意が必要であり、反転待ちのスタンスが無難と思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDとシグナルが下向きのまま下げている。RCIでも短期が下げ止まり、長期も切り下げだすなど下向きの動きを見せている。ただ日足と10日移動平均線の乖離が拡大しており、自律反発には注意と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,500,000 円(2024 年 1 月 15 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2024 年 1 月 15 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>